STOP！介護崩壊　介護ウェーブ2010推進ニュース
－介護ウェーブの"Big Wave"をおこそう！－

方針「今後の介護ウェーブの取り組みについて」を具体化し介護改善要求の声を国会に届けよう！

北海道庁への要請行動　ヘルパーやケアマネジャーら43人が参加

通院は利用者の生活に欠かせない 1回1万円も自己負担になる通院介助制限はおかしい（北海道）

8月20日、連絡会と、道社保協・福祉保育労・道民医連が共同で行った要請行動には、ヘルパー・ケアマネジャーら43人の参加があり、１時間半にわたって道高齢者保健福祉課担当者とやりとりを行いました。この行動には、道新・赤旗などが取材に入りました。

通院介助をめぐって、実質的に「いかなる場合も認めない」指導がなされている問題について、札幌・旭川の現場から実態を告発しました。「病院での待ち時間が算定できないために、１回１万円も自己負担している利用者がいて大変な事態になっている」「負担が重くて、通院を減らしている利用者もいる」「通院介助を利用している人の７割は、独居・老老世帯の方。通院介助は必要不可欠」「いっさい通院介助を受けない事業所が出てきている」。

北海道は「『一律に認めない』という指導はしていないつもりだが、あらためて徹底する」と言明しましたが、現場での混乱が利用者にしわ寄せされている実態をふまえて、各市町村（保険者）に対して、文書で指導を徹底するよう要請しました。

独居加算算定時の住民票取得については、参加者から「住民票では複数世帯でも実際は独居の人もいるし、その反対も存在する。まずアセスメントを重視して欲しい」との意見が出されました。すでに大阪府が「不要」と表明していることもあり、再度厚労省へ確認することにしました。

2万人を越える特養待機者の解消について、特養かりぷあつべつの待機者153人中、介護度４・５の方が36％、独居が50％を占めるなど、深刻な実態が明らかにされました。道の回答は不安に応えるものではありませんでしたが、国の基盤整備基金を使った小規模特養整備などによって、来年度末で事業計画（2,033人の定員増）を300人越える見込みが示されました。さらに、保険料・利用料の軽減に向けた国への要望と道独自の助成、人員基準の見直しについて、具体的事実に基づいて、要請を行いました。

（介護に笑顔を！道連絡会 2010.8.21より）

安全・安心の介護保険制度を！　今後のネットワーク作りが課題

「沖縄介護ウェーブのつどい2010」を開催！　230人が参加（沖縄）

8 月 14 日、沖縄民医連介護・福祉委員会主催で「第 3 回沖縄介護ウェーブのつどい 2010」を開催しました。ノンフィクション作家の沖藤典子氏が「介護保険は老いを守るか　介護保険 10 年の検証と制度改善の課題」と題して基調講演を行いました。沖藤氏は具体例をあげて報告し、「介護保険は当初の介護の社会化という目的とはかけ離れている、人生晩年に利用するものであり人間を見送りする国家の礼儀として煩雑な制度、細やかな制約、働きにくい制度にするべきではない。原点に立ち返るべき」と指摘しました。このあと介護事業所から具体的な事例報告があり、課題を明らかにしていきました。

第 3 回目となる今回のつどいには、県連外事業所 51 人(28 事業所)を含め、 全体で 230 人の参加でした。参加者からは「講演内容はわかりやすかった」「今後も介護ウェーブを継続し、介護制度についてみんなで考え、意見交換の場としてほしい」「よい介護保険制度になるように現実の生活に目を広げながら生活して行きたい」「利用者の声も聞いてみたい」等の感想がありました。今後のネットワーク作りが課題となります。　（2010 年 8 月 20 日　沖縄民医連事務局　比嘉さんより）

「認知症を理解する」認知症養成講座を開催！　組合員、地域住民、職員が受講

8月6日（金）、安謝複合施設にて『認知症養成講座』を開催、講師にかりゆしの里主任の津波古早苗さんを招いて職員・組合員、地域の方19名の参加で行われました。この講座の受講者は、終了後に「認知症サポーター」になれるとのことで、「認知症の方とその家族を支え、誰もが暮らしやすい地域作りをしていこう！」という役目を担い、そのためには「まず認知症を理解する」ということが重要ということでした。

脳の細胞の中にある中核症状には４つの症状があり、その症状一つ一つを理解し、さらにその人の環境・性格・心理状態によって、それぞれ異なったＢＰＳＤ（行動・心理症状）が出るが、それを踏まえ、適切に対応する事がとても大事だと話してくれました。何度も同じ事を言う方に対しては、しっかり聞き、ゆっくりとした口調で分かりやすいように、丁寧に説明し答えてあげる、帰宅願望・徘徊がある方は、その人がなぜ帰りたいのか、なぜ徘徊してしまうのか、その原因を探り理解しようとする、原因が分かれば、それに対し先手を打ち、症状が出る前に何か夢中になれるものをさせたり（趣味）別の事に意識を向けるよう促したり等、そこで、無理に引き止めたり、怒ったりすると症状は倍になり本人・介護者にとってもストレスになると話していました。

私達介護職からすると基本的な事ではありますが、日々の自分自身の対応について考えさせられました。認知症の方は、その人本人が一番辛い思いをしている（特に初期の場合）それを私達が一番に理解し、どんな時でも一人一人に適切な対応をする事がやはり大事だと、初心に戻れた様な気がしました。家族・組合員さんも真剣に聞き入っていました。実際に「親が認知症だと受け入れられず、講座に参加し、やっと受け入れる事ができた…認知症になっても周りがサポートすれば明るく生きられるんですね！」と涙目で話してくれた方もいました。周りの理解・手助けがあれば認知症の方でも、自尊心を傷つけられる事なく、住み慣れた地域で暮らしていけるんだと感じた学習会でした。明日からまた初心に戻って、現場で頑張っていきたいと思います！

（沖縄民医連ニュース 第 1524 号 2010 年 8 月 18 日より）

お問い合わせは、「介護ウェーブ推進本部」事務局：山平・名波まで
TEL　03-5842-6451　／　FAX　03-5842-6460　／　E-mail　min-kaigo@min-iren.gr.jp